

週報

こひつじ

第40巻 45号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

縁を結んではならない

その二 この世の精神

では、われわれが深入りしてはいしようではないか（一コリント
 ならない「この世の精神」とはど 一五の三二）
 んなものか。

第一は、永遠を捨てて現在を選ぶのは、飢え疲れて野から帰ってき
 び、未来への準備をせず、今日をたとき、一杯のスープ欲しさに、
 楽しむということだ。

パウロは言った。

「デマスは今の世を愛し、私を捨て 彼は今日の楽しみのために明日を
 ててテサロニケに行ってしまった」捨てたのだ。

（二テモテ 四の一〇）

パウロが嘆いたのは、デマスがのために今日の欲望を抑えること
 永遠より今を愛してしまったところにあるのではないか。

世の多くの人は、現在がすべて のうちに食べ、明日にとっておく
 と考え、死後の世界を勘定に入れ ことをしない。しかし人間は違う。
 ることはない。彼らは言うだろう。今日の物を明日に譲る。今年の物

「あすは死ぬのだ。さあ、飲み食 を来年に譲る。そのうえ子孫に譲

り、他人に譲るのである。

妻が孫の世話のためにしばらく

東京の長男宅にいたことがあった。

孫は四歳の女の子で幼稚園に通っ

ていた。週に二回だけ弁当の日が

ある。妻が、夕食を食べながら、

「明日はお弁当の日だけれど、お

かずは何がいい？」

と聞くと、孫は食べるのをやめ

て、目の前にある夕食のおかずの

中から、好きなものをつつ取

り分けて、

「明日のお弁当のためにとってお

く」

と言う。

「そんなには食べられないよ」

と妻が言っても、どうしても「と

っておく」と言っただけだった。

そうだ。

人間は、未来を想定する。そし
 てそのための準備をする。幼子で
 あっても例外ではないのである。

長男が中学校に入っただけだっ

た。新聞配達をやりたいが、いい

かと聞いてきた。それで得た金で、

もっと自由に好きなものを買いた

いのだと言う。その気持ちはわか

らないではない。

「それで一ヶ月働いて、いくらも
 らうのか？」

とたずねると、

「七千円」

そこで私は提案した。

「働くのはいい。が、もらったそ
 のお金をそっくりお父さんに渡さ
 ないか。そうすればお父さんがそ

れに三千円を加えて一万円にしよ

う。それを貯金して、そのお金で

高校生になったとき、アメリカを

旅行するというのはどうだろう。

不足分はもちろん補ってやる。」

彼はアメリカと聞いて目をまる

くした。その頃は、まだアメリカ

へ行った同級生などひとりもない

い。彼は一瞬ためらったが、すぐ

に同意した。

三年間よく辛抱した。新聞配達

は決して楽な仕事ではない。寝坊

をすると苦情の電話がすぐにかか

ってくる。朝、彼を起すのは私

の役目だ。なかなか起きないとき

は私も配達にかり出され、二手に

分かれて配達したものだ。

そうやってためたお金でメリ

カにゆく日がついにやってきた。

夢が現実となったのだ。彼は興奮

した。旅行の日程はアメリカに住世の精神に流されないで、永遠の私の友人たちにお願ひした。すために今を捨てる勇氣を持つべき

べてが新しい体験だった。彼の世だろ。 (続) 来に大きな影響を与えたことは言

うまでもない。 今日の礼拝 第一礼拝は午前一〇時から、

このように未来への大きな夢が、 第二礼拝は午前一一時から、 今日の小さな欲望を駆逐するので

ある。 〇教会学校は午前一〇時から。 〇説教は岩崎宏志さん。

「世の人はだれも聖人は無欲だと思

っているが、そうではない。実は、大欲であつて、いちばん欲が

深い。賢人はこれに次ぎ、君子が その次で、凡人のごときはもつと

も小欲である。学問とはこの小欲を大欲に導く術のことである」

と言つたのは二宮尊徳だ。 その人の欲望が大きければ、そとができるかについて語つてくだ

くださいました。 フランチェスコ漫歩 一、青春時代

フランチェスコは一一八二年に イタリアのアッシジに生まれた。

彼の父の名はピエトロ。織物商だった。当時、もつとも富裕だった

のは織物類を取り扱う商人たちで、 彼らは文字通り、当時の銀行家と

もいふべき存在だった。また商いのため広く旅行をしたことから、

世界の動きにも詳しくかつた。 フランチェスコが生まれたのは、

父ピエトロの旅行中である。最初、母は、ヨハネと名づけたが、父が

フランスから帰つてくると、その 国にあやかり、フランチェスコと

いう名に変えた。父は彼をフラン ス流に育てるつもりだったようだ。

ものに憧れ、高く凡俗の上に卓越 広く世界を旅した父ピエトロは、するのが彼の願ひだった。 その後、戦争に参加し、捕虜と

先週の礼拝

司会は林田はるかさん、奏楽は吉岡隆夫さん。説教は長岡舞子さん。創世記三章のエバから、どう

したら騙されない人生を生きるこ

とができるかについて語つてくだ

さいました。

先週の出席

〇礼拝参加者は、第一礼拝が四

三名、第二が四〇名、合計八三名

(男二九、女五四)。それに子どもが五名、合わせて八八名でした。 〇屋宜和成・美菜子夫妻の長女 朱梨さん(広島在住)が出席して

フランチェスコが受けた教育は

わずかだった。ラテン語を少し学

んだが、たいして書けなかつた。

彼の心にもつとも影響を与えた言

語は何かと問うなら、それはフラ

ンス語である。

母のピカは静かな女性だった。

人が、フランチェスコの暴状を告

げるときも落胆せず、 「神の御旨であるなら、あの子も善